

研究タイトル：

旧字典を通して閩語の諸方言の音声的な分析



氏名：	C.E. グレイディ / C.E. Grady	E-mail：	grady@libe.nara-k.ac.jp
職名：	助教	学位：	文学修士
所属学会・協会：	大阪市立大学中国学会		
キーワード：	方言学、音声学、中国学、中国語学、福建話		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・発音指導 ・方言に関する質問 ・中国語に関する質問 		

研究内容： ・なぜ方言が存在するのか / ・方言を守るには何をすれば良いのか

主に台湾で話されている「閩(ピン)語」は中国語の方言の1つです。『Dictionario Hispanico-Sinicum』という、約400年前に書かれたスペイン語→中国語の辞典ですが、2018年にフィリピンの博物館で再発見されました。400年前に記録された発音表記と現代の閩語の発音を比較しながら分析して研究しております。

その結果、当時のフィリピン・マニラ市の中国移民地区では、3つ以上の方言が合わさった中国語を使用していることを発見いたしました。

以下の図を参考にすると、「力」の発音表記が leg 又は lat になっていて、「一」の発音表記が cheg 又は chit になっています。これは使い方による読み方の違いではなく、由来の方言の違いだと明らかにしました。

中国語の古い辞典は、ローマ字の発音表記が書かれているものが少ないため、この辞典の存在が非常にありがたく、今後も面白い発見が期待できます。非常に単語の数が多いため、現在も分析を継続しております。

Fig. 1 「力」の発音表記

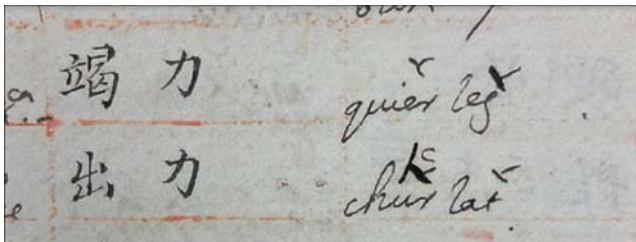
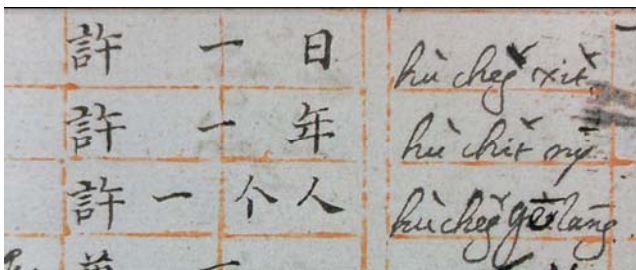


Fig. 2 「一」の発音表記



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	